

我が定言たり、文を書いたる事は、其時でも、離れられぬ事である。其を唯言にばかり、任意で書いて、其理を弁へ知らぬ時は、誤り紛れる事のみ多くて、己が考へ、人に明かす者と思つて、明かす事が出

「併義」とも、古来から、此の言と語とを、別ける言ひは見えず。大凡に概言した定も見える。けれど、
「併義」とも、古来から、此の言と語とを、別ける言ひは見えず。大凡に概言した定も見える。けれど、

「併義」とも、古来から、此の言と語とを、別ける言ひは見えず。大凡に概言した定も見える。けれど、
「併義」とも、古来から、此の言と語とを、別ける言ひは見えず。大凡に概言した定も見える。けれど、

※第3巻より (50%縮小)

【本文組見本】

七 「日本書紀解」序

人生の初、書契未興、以言伝言、語談語説、流於其間、固不足怪也。且夫言語数少、不足以悉指自事物、則托物

八 廣澤安任書「開教五十年紀事」序

本全集の特色

- 1 西周の著作をはじめ、翻訳や日記、書簡などを網羅的に収録した、新たな定本となりうる新編集の全集。
2 編集委員による徹底した校訂に加え、旧版全集には技術的な理由から所収が見送られた『日本語範』や、翻刻が不可能と言われた日記の最晩年部分、著作として扱われず未所収であった各種翻訳、さらには新たに発見された書簡などを含む決定版。
3 テキストを各分野ごとに分類し、哲学、政治思想、法学、軍事論、日本語論等様々な領域で縦横無尽に活躍した西周の業績を一望できるような構成。
4 旧全集刊行以来、数十年にわたる研究蓄積に基づき、巻末には各テキストへの解題と代表編集委員による詳細な解説を収録。
5 底本には原則として国立国会図書館憲政資料室所蔵「西周関係文書」を使用しつつ、テキストによっては当時の公刊物や原史料を参照・校合した。
6 必要な場合を除き、原則として旧字体や変体仮名、異字体等は現行のものに改め、現代の読者にとって読解しやすく扱いやすいものとした。仮名遣いは原文の仮名遣いを基本とした。
7 本全集の編纂は、平成二十九年に津和野町と島根県立大学との間で締結された「西周研究にか

新編 西周全集【全6巻】

★二〇二五年九月刊行開始
以降順次配本予定(※巻数順ではありません)
【第1回配本】
【第3巻】
言語・教育編
定価：本体二二、〇〇〇円＋税
ISBN978-4-336-07614-4



※「ナント」表=De Toonschetsing van den Keizer van Japan, blz.7 収録写真(国際日本文化研究センター提供)

国書刊行会 〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15 Tel 03-5970-7421 Fax 03-5970-7427 https://www.kokusho.co.jp e-mail:info@kokusho.co.jp

申込書
国書刊行会『新編 西周全集』(全6巻)を_____セット申し込みます。
お名前
ご住所
お電話
*必要事項をご記入のうえ、書店へお渡しく下さい。

幕末・維新时期における「知の巨人」の新たな全貌



にし あまね

新編 西周全集

全6巻

新編西周全集編纂委員会 編

国書刊行会

編纂にあたって

樺山紘一（編纂委員会代表・東京大学名誉教授）

周知のとおり、西周は幕末から明治時代にかけて、文明開化に向かう日本にあって、指導的な役割を果たした哲学者・社会理論家でありました。幕末には初の国費留学生としてオランダで学び、近代文化の精髓を体得して、明治の新時代の精神を鼓舞し牽引しました。

その西周の主要な著作は、かつて西周の著作集の一環として公刊され、広範な読者を裨益しました。しかし二十世紀後半にもなると、その真価は十分な検証と評価を受けられないまま、いささか忘却にすら埋もれてしまった感もありました。

ところが世紀もあらたまる頃から、日本近代精神の大きいなる遺産の発掘も始まり、西周を初めとする近代初頭の知的遺産が、再評価の対象とされるようになります。私たちは、そうした知的潮流を受けて、長らく入手や閲読が困難だった著作を復刊し、西周の真価を問う作業を必須と考えるようになりました。志を同じくする研究者を中心として、既刊の著作を再精査し、信頼できる刊本を作成して世に問おうと考えました。全集に未収録だった草稿の発掘も並行させ、信頼できる全集版の作成に取りかかりました。

こうしていま、『新編西周全集』を、かねての輝きに加えて、現代的関心の装いもあわせ、広く世に問うことにいたしました。二十一世紀の皆さんに味読していただき、厳しい検証と温かい励ましとを賜ればと心より念じています。

編纂委員会

代表 樺山紘一（東京大学名誉教授）

委員 石井雅巳（山口大学講師・事務局担当）

井上厚史（故人・元島根県立大学教授）

上原麻有子（京都大学教授）

川崎勝（故人・元南山大学教授）

手島邦夫（元北海道科学大学教授）

蓮沼啓介（神戸大学名誉教授）

服部隆（上智大学教授）

樺本崇史（島根県立大学准教授）

山岡浩二（元浙江大学城市学院客座教授）

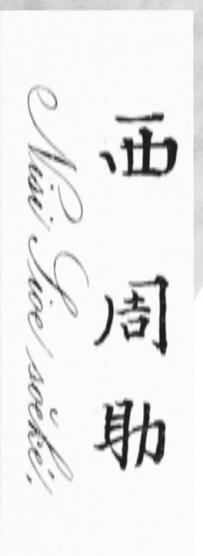
津和野町教育委員会

（五十音順）

編纂協力

公立大学法人 島根県立大学

島根県津和野町



津和野藩（現在の島根県津和野町）に生まれ、オランダへの留学を経て、近代日本の黎明期に様々な領域で活躍し、後世に大きな影響を与えた思想家・西周（1829～1897／文政十二～明治三十年）。

旧全集では収録されなかったその著訳書、部分的にしか翻刻されていない日記の完全版、新たに発見された書簡などの新資料に徹底した校訂を加え刊行する決定版新全集。徳川慶喜や山県有朋のブレイン、日本近代哲学の祖、明六社の同人など様々な顔をもつ幕末明治期における「知の百面相」の全貌が明らかに！

◆全巻目次（予定）

【第一巻】哲学・思想編（1）〈代表編者〓井上厚史・樺本崇史〉

徂徠学に対する志向を述べた文、津田真道稿本「性理論」の跋文、開題門、靈魂一元論、生性発蘊、生性剖記、尚日剖記、百一新論、復某氏書、学原稿本、五原新範、致知啓蒙、知説、人智論、情智関係論、美妙学説、教門論、人世三宝説、幸福ハ性靈ト形骸上下相合スルニ成ルノ論、学問ハ淵源ヲ深クスルニ在ルノ論、論理新説、心理説ノ一斑、理ノ字ノ説、道德略論、非学者職分論、国民気風論 【付】西洋哲学史の講案断片、哲学関係断片

【第二巻】哲学・思想編（2）〈代表編者〓樺山紘一〉

百学連環、百学連環覚書

【第三巻】言語・教育編〈代表編者〓手島邦夫・服部隆〉

《言語篇》

洋字ヲ以テ国語ヲ書スルノ論、日本文学会社創始ノ方法、加藤先生博言学議案ノ議、ことばのいしずゑ、詞の麓路、日本語範、彙言便覧

《教育篇》

養在私言稿本、徳川家兵学校掟書、徳川家兵学校附属小学校校掟書、徳川家兵学校附属小学校校掟書・追加二書、徳川家沼津学校追加掟書、追加沼津学校掟書、文武学校基本並規則書、育英舎則、和蘭大学法令、東京師範学校ニテ道徳学ノ一科ヲ置ク大意ヲ論ス、東京師範学校ニテ法令学ノ科ヲ置ク大意、師範学校卒業式ノトキ卒業生ニ告クル文、東京大学卒業証書授与式演説、才能遍辯生於作用之反復説

《詩歌篇》

漢詩集、和歌集、万葉集字訓

《語文集》

津田真道「開化ヲ進ル方法ヲ論ス」批評、煉火石造ノ説、愛敵論、情実説、秘密説、演説会ノ説、東京学士会院会長就任演説、森全権公使ヨリ送致セル文書ノ儀ニ付会院諸先生へ協議ノ件、東京学士会院文書抄、大書院進説子適衛章、大書院試説前出師表、御前進説天時不如地利之章、杞憂竝議自叙草稿、丁巳十月草稿、紀年会の祝詞、人物雜俎、序文集、短文、隨筆

【付】西周新造語一覽

【第四巻】政治・経済・軍事編〈代表編者〓蓮沼啓介〉

《法学・政治篇》

性法説約（性法略朱注）、五科学習関係文書、議題草案、泰西官制説略、原法提綱、憲法草案、駁旧相公議一題、政略説、英主比較論、人主比較論、自主ハ自由ニ成ルノ説、内地旅行、藩主への建言、鳥尾小彌太「国勢因果論」書評、大臣論、貴族院

議員辞職願、大政紀要下編各論工業の部 【付】法学関係断片、憲法草案（山県有朋案）

《経済・社会篇》

経済学、海関税ノ説、社会党論ノ説、交詢社創立会祝詞交詢字義 【付】燈影問答

《軍事篇》

兵家徳行、兵賦論、軍人訓戒草稿、軍人勅諭草稿、軍人訓戒閱係稿本、朝鮮征討総督への勅語草稿、出師上諭、上隣邦兵備略表、軍律草稿批評、陸軍定額減却に付意見草案（代作）、騎兵護衛の解除を乞う上奏文案（代作） 【付】陸軍職制第七条ニ対スル批評、会計部大綱条例、日本治世ノ兵数、塞納府巴里、元老院での発言

【第五巻】翻訳編〈代表編者〓上原麻有子〉

心理学、訳利学説、利学、万国公法、云何惟人、生物鑷気学、学士也令氏権利争闘論

【第六巻】日記書簡資料編〈代表編者〓川崎勝〉

《日記》

日記、日記断片、日記断片追加、明治元年日記断片、明治三年日記断片、明治十五年～明治二十七年日記（六月三十日）、咸臨丸航海記・下田紀行（和蘭紀行、和蘭紀行追加、和蘭より帰路紀行）、「明治初年沼津兵学校ニ関シタル記事及ヒ江戸ヨリ沼津ニ到ル旅行記事ノ一部」

《書簡》

松岡隣宛書簡、加藤弘之宛書簡、津田真道宛書簡、津田真道宛書簡追加、新開齋叢、中村正直宛書簡、石黒忠恵宛書簡、中村秋香宛書簡控、山邊丈夫宛書簡、寺田福壽宛書簡、阿保友一郎宛書簡、西紳六郎宛書簡、森静男宛書簡、相澤朮（湛庵）宛書簡、岡野周吉宛書簡、永見裕宛書簡、山縣有朋宛書簡、米原綱吉宛書簡、金子堅太郎宛書簡、桂太郎宛書簡、松方正義宛書簡、五代友厚宛書簡、辻新次宛書簡、杉浦譲宛書簡、西勃平宛書簡外、増野春宛書簡、その他未公刊書簡、蘭文往復書簡、草稿断片、披露宴案内状

《資料》

西家譜略、西家系図、西家系譜、家系譜、奉願口上覚、御役御免奉願願候書付、西紳六郎養子縁組認可書、西紳六郎家督相続、家祿関係書類、「履歴 一」（明治十四年三月十七日～二十九月日）、西周宛書簡（徳川慶喜、柳川春蔭（春三）、中根雪江、服部綾雄、寺島宗則、新村猛雄主計頭、下野守、筑後守、亀井茲監、林洞海、佐藤泰然、西郷従道、岩倉具視、勝安芳、山県有朋、加藤弘之、成島柳北、洪沢栄一、福沢諭吉、福羽美静、三島猛、阿保友一郎、奥宮正路、谷裕吉）、人名録（「以呂波別人名録」「交際人名録」「津和野人名」）、西周所蔵洋書目録、己丑大和遊記